

男女共同参画社会をめざす

New Wave No.8

ニューウェーブ

平成15年(2003年)3月25日発行

●特集●

共にそれぞれの持ち味を知る

～市・市民・事業者の協働を目指して～



発行／横須賀市 市民部男女共同参画課

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています

★このリーフレットはご自由にお持ち下さい。

共にそれぞれの持ち味を知る

市・市民・事業者の協働を目指して

今回の特集では、市内の事業者の方（株式会社美装代表取締役 福嶋義信さん）に男女共同参画への取り組みについてインタビューを試みました。

1

経営哲学 男女平等のポリシー

Q「貴社の経営哲学を教えてください」
A「人種や性別などを乗り越えて、世界のいろいろな人々と一緒に仕事をしたいというのが、子どもの頃の夢でした。この思いは、現在の経営にも生かされています」

福嶋さんの言葉には、働くことが大好きで仕方がないという強い信念があった。
（株）美装では、条例の施行前から男女共同参画の理念が根付いていた。

男女共に、各々の良い所（強み）を知り、持ち味を発揮することがバランスの良い職場環境をつくる秘けつのようなのだ。

働き続けたい女性にとって、妊娠・出産・育児期をどう乗り越えるかが問題。

この難関を、育児コーナーの設置で乗り切ったが、やはり、社会における保育システムの充実が今でも待ち望まれるということだ。

2

ハードルとなる要因 女性に数字に弱い？

Q「事業者の立場から見て、男女共同参画社会の障害（ハードル）となっている要因は何であると思われますか」

A「利益を上げなければ成り立たないのが、会社という組織です。経営理念ばかりが先走りしても、当数字が上がらなければ意味がない、女性は、この数字に弱いと思われるようです。でも、実際はそうではないと思います。我が社では、社員ひとりひとりの個性・能力を最大限尊重しています」

この言葉はややもすれば、シエンダーバイアス（性別に関する偏見、思い込み）にとらわれた発言では？と感じる読者もいるかもしれない。しかしながら、良薬は口に苦し



のごとく、これは朗報、応援メッセージなのである。

数字に強いとされてきた（慣らされてきた？）男性が社会をリードし、この社会を動かしていたという意識の証しと言っても言い過ぎではないだろう。

折しも、科学技術の発展にともなう、電気洗濯機、電気掃除機と、家事労働が、驚くほど軽減されてきた。

あわせて教育改革も進み、男女を問わず数字に強い人たちが溢れている。これまでは弱みとしてみられていた部分を克服できる社会になりつつあるのだ。

福嶋さんの言葉を借りれば、時間獲得と数字克服を成し遂げた女性たちは、男女共同参画社会に貢献出来る有能な人材ということだ。

女性が今まで育んできた数字以外のもの、例えば、家事のノウハウだったり、地域活動で得たコミュニケーション技術だったり、そんな能力を必要とする社会が、到来しているのかもしれない。

これこそ、男女共に良い所を生かすチャンスだ。

横須賀市男女共同参画推進条例には、市・市民・事業者の三者の協働により、男女共同参画社会を実現していく、と定められている。今回のインタビューでは、この三者が一つのテーブルを囲んだ。

Q「男女共同参画社会を実現する上で、市に対して望むことは？」

A「様々な団体への支援活動や、地域活性化のためのイベントに、積極的に参加しています。市はもっとメッセージ性のある活動を行ってはどうかと思います」

そう語る福嶋さんも、この横須賀市を支える一市民だ。

色々な活動から得た市の対応や、市民の反応など、男女共同参画社会実現に向けてのアイデアをお聞きした。

「ニューウェーブのような市民参加型の広報紙は、公共機関にただ配布するだけでなく、市のリー

ダーさんたちに直接配布して、たくさんの方の目に触れるよう、率先して働き掛けて頂いたらどうか」

この意見には、私たちも大きく頷いた。多くの人たちに見て頂きたい、そして参加して頂きたい。

イベントを企画する側や、広報紙を作る側からは、切に願う気持ちである。

市・市民・事業者の協働は、男女共同参画社会の実現に向けても、大いに必要なことです。この基本的なことを改めて認識させて頂いた福嶋さん他、お忙しい中、貴重なお時間を割いていただいた社員の方々に厚くお礼申し上げます。



Talk

ここまで進んだジェンダーフリー

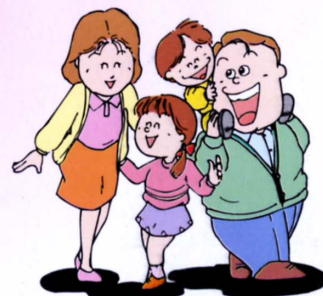
本音で話し合い、考えてみませんか？ に参加して

2月1日（土曜日）に市立総合福祉会館において、「トーク・トークここまで進んだジェンダーフリー」という題名で市民グループはまゆうの会（市内で男女共同参画の調査・研究などを行っているグループの1つです）によるワークショップが開催されました。

関東学院大学非常勤講師の志村直愛先生をお迎えして小・中・高校生300人のアンケート「家族のかかりについて」の結果と解説をさまざまな世代・性別をまじえて、約20名で話し合いました。

志村先生からは、「社会そのものは、確実に変化してきている。男女共同が当り前の世代が増えてはきているが、意識と実態の差はまだあり、まだまだ声に出して言うことが必要」というコメントをいただきました。

ちなみに、志村先生は、日常もパートナーとの家事分担をされているとのことでした。



デュオプランよこすかPart.Ⅱ進ちょく状況報告

平成13年度より男女共同参画社会の実現をめざして策定された「デュオプランよこすかPartⅡ」の平成14年度実施事業の概要は下記のとおりです。詳細について、御自身の目で確かめてみませんか？ インターネット上の男女共同参画課ホームページ（アドレスは本紙面下部に載っています）に概要報告が掲載されているほか、男女共同参画課や市役所情報コーナーでも、報告書が閲覧できます。

平成14年度実施状況（概要）

方 針	事業 件数	平成14年度		
		実 施	準備・検討	未実施
I 男女平等の意識づくりと制度・慣習の見直し	33	29	3	1
II あらゆる分野への男女の対等な参画の促進	18	18	—	—
III 男女が多様な生き方を選択できる環境づくり	23	23	—	—
IV 就労の場における男女平等の実現	16	16	—	—
V 性別ゆえに人権がそこなわれることのない社会づくり	16	14	—	—
VI 家族が安心して生活のできる環境づくり	18	18	—	—
VII プランの推進と進行管理	11	9	2	—
合 計	135	127(94%)	7(5%)	1(1%)

ご存知ですか？男女平等専門委員 平成14年度実績報告

みなさん、「男女平等専門委員」をご存知ですか？ 横須賀市では、男女共同参画推進条例の施行に伴い、性別による人権侵害でお困りの方や市の実施する施策で男女共同参画に影響を及ぼすと思われることに対して不服のある方などの申出窓口として、この「男女平等専門委員」という独立した機関を設けました。

平成14年度の活動実績が報告されましたので、ここにその一部を掲載いたします。申出総数は2件でした。詳しい内容は男女共同参画課ホームページで閲覧できるほか、男女共同参画課・市役所情報コーナーでも、報告書が閲覧できます。



相談・問合せ状況

電話等の問合せ	件 数
当制度で処理すべき事案	3 (8%)
制度に関する質問	16 (44%)
DV等の相談	9 (24%)
その他	9 (24%)
合 計	37 (100%)

※結果公表のため、平成14年4月1日から平成15年2月28日までの期間としています。

編集 後記

本号の編集会議で、7号は市の取り組みに注目したので、今回は企業にスポットを当ててみようということになった。

そこで商工会議所に男女共同参画を意識している企業の紹介をお願いしたが、珍事件が起きてしまった。なんと、紹介された企業は、ニューウェーブ1号で取り上げた企業と同じだったのだ。編集委員は戸惑った。そして苦笑い。

「同じ企業でいいの?」「去年の4月に条例が施行されたばかりだもの、世の中急には変わらないのよ」依頼を受けた(株)美装の福嶋さんも、同じ反応だった。

(株)美装では、様々な情報誌を手掛けている、いわゆる広報紙のプロである。

そのプロが恐縮され、以前とあまり変わらない社会に戸惑われていた。

この事からも読者は、私たちが「新米編集委員」であると、よくお判りになると思う。失敗は成功のもと！ 何ごとも勉強である。

※表紙の絵は、池上小学校 南雲沙綾さんによる衣笠さくら祭を描いた作品です。

◎ニューウェーブは公募による市民の方によって、企画編集を行っています。

皆様のご意見やご感想をお待ちしています。

横須賀市市民部男女共同参画課 〒238-8550 横須賀市小川町11 ☎046-822-8228

e-mail we-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp

ホームページ <http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/gender/>